

令和2年度 西成区運営方針(素案)

(区長:横関 稔)

◆計画

区・局の目標(何をめざすのか)

未来を担う子どもたちが健やかに育ち、だれもが笑顔にあふれ、安心安全に暮らすことができるまちの実現をめざす。

区・局の使命(どのような役割を担うのか)

地域住民等との連携・協働のもと、区長自らの権限・責任において、地域の実情や特性に即した施策や支援を行う。また、多様な区民の意見やニーズを把握し、区政への区民の参画など、地域と一体となって様々な施策を展開していく。

令和2年度 区・局運営の基本的な考え方(区・局長の方針)

西成区は、少子高齢化やあいりん地域などの様々な課題を抱えている。それらを解決するため、「1 子どもに寄り添った支援と子育てしやすいと実感できるまち」「2 活気にあふれ、誰もが歩きたくなる楽しいまち、豊かに自分らしく健康に生活できるまち」「3 災害に強いまち、犯罪が起こりにくく、安心安全に暮らせるまち」「4 官と民が協働して取り組み、あいりん地域が抱える様々な課題を解決し、安心して暮らすことができるまち」に向けた施策や支援などを重点的に取り組んでいく。西成特区構想については、引き続き人的資源や地域資源を活かして、にぎわい創出と再チャレンジ可能なまちの実現をめざした取組みを推進する。さらに、子育て支援の充実や重大な児童虐待ゼロに向けて区の特性を活かした新たな対策を進めていく。また、区民にとって身近で親しみやすい区政運営を推進することにより、区民から信頼される区役所づくりをめざす。

重点的に取り組む主な経営課題(様式2)

経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題1 子どもが育つ環境の充実】 他の地域からの誘引と合わせて、現に居住している子育て世代が定着し易くなるような、身近な地域で安心して子育てできる環境づくりが必要である。</p>	<p>【1-1 子どもの「育ち」を支援】 子どもたち自身で課題や困難を乗り越える「生きる力」を育むことができる居場所をつくり出すなど、区民の子育て環境を充実させる。</p>
<p>主な具体的取組(2年度算定見込額)</p>	
<p>【1-1-1 プレーパーク事業】(2算定見込額 17,630千円) 子どもたち自身で課題や困難を乗り越える力を身につける場としての『遊び場』、学習習慣を身につけ、学力向上を図る場としての『学び場』、自己肯定感を高めることができる場としての『たまり場』の3機能を併せ持ち、子どもの「生きる力」を育むことができる、しなりプレーパークを実施する。</p>	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題2 にぎわいとコミュニティが生まれるまちづくり】 西成区を訪れるすべての観光客が、区内を周遊する状況には至っていないため、人を呼び込み、まちを活性化させていく必要がある。 様々な活動主体の協働により地域活動が進められ、また、地域や関係機関が連携し、人々がつながる仕組みを充実させる必要がある。</p>	<p>【2-1 地域資源を活かした新たなにぎわいづくりと活性化】 新今宮エリアに集積する廃業・休業した宿泊施設や商店街店舗を再生し、旅行者等のインバウンド需要のエリア内に回遊性をもたせ、にぎわいを創出する。また、地域資源や区内の歴史・文化を活かした取組みを行い、地域住民・地域団体等が主体的に行う取組を支援するなど、まちの活性化につなげる。</p>
<p>主な具体的取組(2年度算定見込額)</p>	
<p>【2-1-1 地域密着型エリアリノベーションビジネス促進事業】(2算定見込額 17,977千円) 新今宮駅前エリア内において、外国人観光客をはじめ多くの区民・市民が回遊し、にぎわいが創出できるよう、企業等と連携し、アンテナショップやまち歩きなどの手法を用いた仕掛けづくりを行うとともに、空き店舗等の改修費用についての一部補助制度を創設する。</p>	
経営課題の概要	主な戦略
<p>【経営課題3 防災・防犯・安全対策】 地域におけるつながりの希薄化が進んでおり、災害時における要援護者支援の充実を図るとともに、区民一人ひとりの防災意識の向上を図る必要がある。また、区民の防犯意識を高め、交通ルールの遵守とマナーアップが重要である。</p>	<p>【3-1 コミュニティ防災力の強化】 平常時から、要援護者が孤立することなく、身近な地域の人々とつながる仕組みを充実させることにより、災害時における要援護者支援につなげる。また、地域の特性や実情に応じた主体的な防災活動を活性化させることにより、地域防災力を強化する。</p>
<p>主な具体的取組(2年度算定見込額)</p>	
<p>【3-1-1 地域防災活動事業-地区防災計画を活用した地域防災力の向上-】(2算定見込額 5,231千円) 作成した地区防災計画に基づき地域ごとに防災訓練を実施する。災害時の避難行動、要支援者の支援、避難場所や避難所の運営ルールなどを確認・共有化することで、地域コミュニティにおける共助の意識の醸成を図り、地域防災力を高める。</p>	

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題4 あいりん地域対策】 あいりん地域の環境対策や結核対策等、あいりん地域が抱える様々な課題を解決するための取組みが必要である。	【4-1 あいりん地域環境対策】 先ずは、官と民の協働により、あいりん地域の環境を改善する。その後は、地域住民の自律的・主体的な取組により、環境が維持・改善されていくような仕組みづくりをめざす。
主な具体的取組（2年度算定見込額）	
【4-1-1 不法投棄対策】(2算定見込額 112,730千円) 地域内における不法投棄を防止するために、巡回活動を実施する。また、公園に設置した美化啓発拠点に持ち込まれる家庭ごみを適正に処理するとともに、地域住民に対し家庭ごみの排出ルールの啓発を行う。	

「令和2年度以降の市政改革計画」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
主な取組項目	取組内容

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【子どもが育つ環境の充実】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

子どもが夢を持ち健やかに育つ環境を整えるなど、子どもに寄り添った支援と子育てしやすいと実感できるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・区の年少人口割合（0～14歳）

平成22年：9,071人（7.6%）→平成27年：7,730人（7.3%）→平成37年（推計）：5,214人（6.4%）

平成27年：大阪市：295,298人（11.1%）

（国勢調査人口等基本集計結果等）

・区の子育て世代（20～49歳）の人口

平成22年：36,121人→平成27年：31,993人（11.43%減）

（国勢調査人口等基本集計結果等）

・子育てに不安、負担感をもつ子育て世代が多い。

「安心して子育てができる環境が充実している」と思うかという質問に対し、

「どちらかといえば思う」「思う」と答えた割合：33.5%

（平成30年度区民モニターアンケート結果）

・全国学力・学習状況調査の結果、平均正答率が小・中学校の全教科で全国平均に比べて大阪市平均が低い。

（小学校国語で5.8ポイント、中学校国語で2.8ポイント下回っている。/平成31年度全国学力・学習状況調査）

・「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に対し、肯定的に答えている児童の割合

全国平均 71.5% > 大阪市平均 60.3%（平成31年度全国学力・学習状況調査）

・西成区では、学校の授業以外に学習する習慣のない児童生徒が多い。（各学校からの報告/特区構想専門部会）

・週1回以上遅刻する割合が、大阪市平均に比べて西成区平均が高い。（大阪市子どもの生活に関する実態調査（平成28年度））

（小5）大阪市平均15.2% 西成区平均20.0%（中2）大阪市 10.0% 西成区17.2%

・学校の出来事を話したり、地域の行事に参加したりする児童の割合が全国平均に比べて大阪市平均が低い。

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」の質問に対し、肯定的に答えている児童の割合

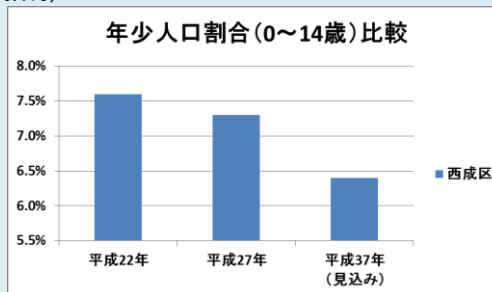
全国平均 77.4% > 大阪市平均 73.0%

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に対し、肯定的に答えている児童の割合

全国平均 68.0% > 大阪市平均 54.9%

（平成31年度全国学力・学習状況調査）

・平成30年度の西成区の児童相談件数1,007件の内、養護相談や障がい相談の割合51%



計
画

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・西成区の年少人口の割合は減少傾向となっており、将来人口推計によると西成区はさらに少子化がすすむ深刻な予測となっている。

・子育て世代をひきつけるような子育て環境が充実していないため、地域で育った人も子育て世代になると区外に転出するなど子育て世代の定住率が低い。

・全国学力・学習状況調査の結果が低迷しているのは、学校の授業以外に学習する習慣がなく、基礎的な学力が身につけていない児童生徒が多いためである。

・遅刻や不登校により授業及び既存の学びに関する支援施策に参加・継続できていない児童生徒が一定数おり、本来学校生活を過ごすことにより身につく人間関係や学力、社会生活に必要な規範意識などを育むことができない要因の一つであると考えられる。

・少子化や核家族化、地域コミュニティの希薄化により、子ども同士や大人との関わりが少ない。

・児童虐待の未然防止には、虐待リスクの高い孤立した家庭への支援が重要である。近年、育児不安やストレスを抱えている親からの養護相談や障がい相談が増加傾向にある。しかし、孤立化した子育て家庭など、相談に至っていないケースも相当数あると考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

・他の地域からの誘引と合わせて、現に居住している子育て世代が定着し易くなるような、身近な地域で安心して子育てできる環境づくりが必要である。

・子どもたち自身で課題や困難を乗り越える「生きる力」を育むことができ、子ども同士や大人と関わることで安心感を得たり社会性が身につく居場所をつくり出す。

・学校の授業以外に学習する習慣がない児童生徒の学習習慣の定着や学力向上に向けた取組みが必要である。

・課題を抱える児童生徒が、健全な学校生活を送ることができるよう支援する。

・精神疾患や知的障がいがある子どもまたは親と暮らす世帯は、社会との関りを敬遠する傾向にあり、孤立のリスクが高いため、予防的支援が必要である。

自
己
評
価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 1-1 【子どもの「育ち」を支援】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	子どもたち自身で課題や困難を乗り越える「生きる力」を育むことができる居場所をつくり出すなど、区民の子育て環境が充実し、すべての子どもが安定して生活できる状態		・子どもたち自身で課題や困難を乗り越える力を身につける場としての『遊び場』、学習習慣を身につけ、学力向上を図る場としての『学び場』、自己肯定感を高めることができる場としての『たまり場』の3機能を併せ持ち、子どもの「生きる力」を育むことができる、にしなりプレーパークの本格実施を継続する。 ・食を通じた団らんの中で、子ども同士や地域の大人と関わりながら、安心して過ごすことができる子どもの居場所としての「こども食堂」が区内各地域に広がることで子育て環境の充実を図る。 ・子どもに精神疾患や知的障がいがあることで育てにくく感じたり、親に障がいがあり自ら子育てを苦痛に感じるなど障がいがある家庭は虐待のリスクが高く、社会との関りを敬遠する傾向があり、専門職員が寄り添い医療や療育につなげることで、親の不安やイライラを解消し虐待予防を図る。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	A:順調 B:順調でない		

具体的取組 1-1-1 【プレーパーク事業】

30決算額 15,887千円 元予算額 18,036千円 2算定見込額 17,630千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・平成30年度からの本格実施を継続する。 < 場 所 > もと津守小学校・幼稚園 < 開催期間 > 令和2年4月～令和3年3月 土日祝及び長期休み中の平日（計126日間） 開催時間：10～17時（冬期は10～16時30分） < 実施内容 > 運動場を利用し「遊び場」、幼稚園舎を活用し「学び場」、「たまり場」を実施する。		プレーパークの一日あたりの来場者数平均120人以上を目標とする。 【撤退・再構築基準】 ・一日あたりの来場者数が平均80人未満であった場合、事業の見直し又は再構築を行う。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)		
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組 1-1-2 【こども食堂支援事業】

		30決算額	3,123千円	元予算額	6,858千円	2算定見込額	4,658千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	・区内でこども食堂を開設・運営する団体等に対し、こども食堂の安定した運営や新規運営者が参入できるよう補助金により支援する。また、各団体間の情報共有やフードバンク等企業との連携を促進するネットワーク形成団体に対して運営費を補助し、開設の促進と運営の安定化を図る。こども食堂の運営・開設経費や関係者間のネットワーク構築費用について、補助対象経費の1/2を補助する。			区内11小学校区に1ヶ所ずつのこども食堂の開設をめざす。（現状は11小学校区に対し、7小学校区） 【撤退・再構築基準】 こども食堂が開設される小学校区数について、現状から増加しなかった場合、事業の再構築を行う。			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成							
戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 1-1-3 【障がいがある子どもや親の孤立防止支援事業(仮)】

		30決算額	—円	元予算額	—円	2算定見込額	8,079千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	・区役所と関わっていない可能性のある精神疾患や知的障がいがある子どもまたは親の全数について現状を把握するとともに、専門職員が迅速に対応することにより、親子が穏やかに生活できるよう適切な助言を行い、必要に応じて支援機関につなぐ。 ・精神疾患や知的障がいがある子どもの親に対する、子どもの特性を理解してもらうための連続講座や、障害がある親がしんどい時に、親の負担軽減と子どもの見守りのための保育所等への送迎支援等も実施し、家庭に引きこもらないような取り組みを合わせて実施する。			精神疾患や知的障がいがある子どもまたは親が区内に約5,000人おり、そのうち区役所との関わりのない約4,500人について3年かけて調査・訪問し、重大虐待ゼロを維持するため、課題を抱えている家庭に専門的職員が迅速対応し関係機関等へつなげていくことをめざす。なお、課題を抱えているとの想定数は約1,500人とし、関係機関へつなぐべきかを検討する件数500人を単年度目標数値とする。			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成							
戦略に対する取組の有効性			ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 1-2 【子どもの「学び」を支援】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> 多くの子どもが、積極的に勉強し学習習慣を身につけることで、学力が向上したと実感できる状態	戦略（中期的な取組の方向性） ・小中学生が積極的に勉強し、学習習慣を身につけ、学力向上をめざすために、塾等の民間事業者による、小中学校校舎等の公共施設を利用した課外授業（補習）や、夏休み期間中や平日の放課後及び土曜日に学習支援を実施することで、区内の小中学生の基礎学力向上および居場所づくりをめざす。 ・区内の小中学校に学習面・家庭生活面で児童生徒が抱える様々な個別課題に対応するためのこども生活・まなびサポーター等を配置し、課題を抱える児童生徒に寄り添った支援を行うことで健全な学校生活を送ることができるようにする。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 西成まなび塾と西成ジャガピースクールの参加者アンケートで「基礎学力（成績）が上がった」「勉強する習慣がついた」と答える割合が令和4年度までに80%以上	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組 1-2-1 【西成区基礎学力アップ事業（西成まなび塾）】

	30決算額	276千円	元予算額	218千円	2算定見込額	221千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）				
	区内中学生を対象に、塾代助成事業が利用可能な事業者による課外授業を実施し、中学生の基礎学力アップと放課後の居場所づくりをめざす。 ・実施場所 区内3ヶ所（鶴見橋中学校、玉出老人憩いの家、たちばな会館） ・各実施場所週2回課外授業を実施。 ・参加者 90人以上（30人×3ヶ所）	参加者にアンケートを実施し、基礎学力の向上及び学習習慣の定着を測る項目について肯定的な意見が70%以上を目標とする。 【撤退・再構築基準】 上記目標が40%を下回る場合は事業の再構築を検討する。 前年度までの実績 〈平成30年度〉アンケート結果：勉強時間が増えたと答えた生徒 61.4% 参加者数：鶴見橋中学校5人、玉出老人憩いの家39人、たちばな会館18人 計62人 〈令和元年度〉参加者数：鶴見橋中学校4人、玉出老人憩いの家29人、たちばな会館16人 計49人（8月末現在）				

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組 1-2-2

【基礎学力向上支援事業(西成ジャガピースクール)】

30決算額 8,328千円 元予算額 8,332千円 2算定見込額 8,363千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	・区内の小学校3・4年生を対象に、夏休みや平日の放課後及び土曜日の時間を利用して、学力の基礎となる国語・算数を中心に集中的な学習支援を行う。 ・学習意欲を高め、基礎学力の向上や学習習慣の定着をめざす。 対象児童数:352名 学習時間:50時間	授業の初回と最終回にテストを行い、点数が上昇する児童が70%以上 【撤退・再構築基準】 授業の初回と最終回にテストを行い、点数が上昇する児童が40%を下回る場合、事業の再構築を検討する。 前年度までの実績 <平成30年度>参加者数:308名 成績:テストを受検したうち59.7%が成績上昇 <令和元年度>参加者数:252名
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

具体的取組 1-2-3

【西成区子ども生活・まなびサポート事業】

30決算額 14,260千円 元予算額 27,806千円 2算定見込額 69,679千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	当該事業を再構築し、令和2年度から当区においても実施される子どもサポートネット事業によって決定される要支援者への支援方針に基づき、学校に配置することも生活・まなびサポーターが児童生徒の課題解決へ向け、「電話や家庭訪問による登校支援」等のまなびの場へ定着するための寄り添い支援を行う。平成30年度は区内1中学校区(1中学校2小学校)、平成31年度は区内2中学校区(2中学校4小学校)で実施しており、令和2年度は区内全小中学校(6中学校11小学校)に拡充して実施する。	学びの場へ定着することを目的とし、遅刻者数や不登校者数が前年度よりも減少することを目標とする。 【撤退・再構築基準】 遅刻者数や不登校者数の改善が見られない場合は再構築する。 前年度までの実績 モデル実施を行った2中学校区(2中学校、4小学校)にて遅刻や不登校の状況に改善が見られた。
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成 戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【にぎわいとコミュニティが生まれるまちづくり】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

活気にあふれ、誰もが歩きたくなる楽しいまち、豊かに自分らしく健康に生活できるまちをめざす。

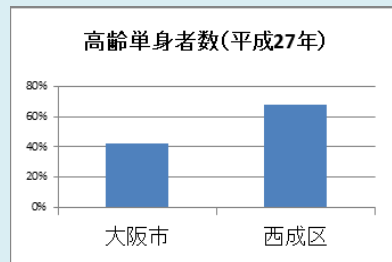
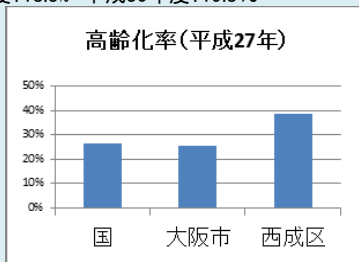
現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【にぎわい】

- 西成区は交通至便のまちであることから、外国人等の観光客が増加しているものの、隣接する区や近隣都市への観光のために宿泊することが多く見られる。
来阪外国人客数 平成28年:約940万人 平成29年:約1,110万人 平成30年:約1,142万人
大阪市域外国人延べ宿泊者数 平成28年:約828万人 平成29年:約986万人（大阪府観光統計調査）
- 西成区においても、少子高齢化等を背景に空家が増えつつあり、また商店街には空き店舗が見られる。（地域資源活用専門部会/西成特区構想エリアマネジメント協議会）

【地域活動】

- 地域団体や市民、NPO、企業などいろんな方々が連携し、協働することによって、まちづくりに関する活動が進められていると感じる区民の割合
平成29年度:32.1% 平成30年度:33.3%
- 地域活動に参加していると答えた区民の割合 平成29年度:18.3% 平成30年度:19.8%



【福祉】

- 西成区の高齢化率 平成27年:38.7%
- 高齢者世帯に占める単身世帯の割合 平成27年:68.1%
- 虐待の相談件数
【平成30年度】
こどもに関する相談:47件
高齢者に関する相談:49件
障がい者に関する相談:29件

- 若年層の生活保護申請件数 令和元年 約50件/月
- 労働福祉センター求人数 平成元年:約5,700件/日 令和元年:約1,000件/日

【人権】

- 人権について、関心が「ある」「どちらかといえばある」と答えた区民の割合 平成28年度 56.7% 平成29年度 59.9% 平成30年度 69.5%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【にぎわい】

- 観光客向けの宿泊施設は多いが、新世界や天王寺などへの観光が多く見られ、西成区内へ誘導する仕組みが十分でない。

【地域活動】

- 地域への関わり、人と人とのつながりの希薄化がみられ、様々な地域活動の情報が区民に十分に伝わっていない状況である。
- 地域活動に対しての新たな人材の担い手の発掘・人材の確保が進んでおらず、世代交代への取組が進んでいない状況である。

【福祉】

- 西成区の高齢化率、高齢単身世帯の割合は、いずれも大阪市の中で最も高い状況である。
- 社会的孤立の広がりによる孤立死や虐待問題が、社会的問題となっている。
- 日雇建設労働市場が縮小傾向にある一方で、稼働能力がありながら、通常就労では就労先を見つけられない若年層が多く見られる。

【人権】

- この間の区民意識調査によれば、人権について関心が「ある」「どちらかといえばある」と答えた区民の割合は6割前後で推移している。自らが人権について考え、学ぶことに対する意識の高揚が図られるまでには至っていないため、引き続き人権啓発推進の取組を通して「人権意識の醸成」につなげていくことが重要である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【にぎわい】

- 西成区を訪れるすべての観光客が、区内を周遊する状況には至っていないため、人を呼び込み、まちを活性化させていく必要がある。また、引き続き空き店舗の活用方法を検討するなど、地域の活性化につなげる。

【地域活動】

- 地域活動へ関わりが薄かった人が活動に参加できるような仕組みを構築する必要がある。
- 地域における担い手の固定化及び高齢化が進行しており、今後の地域活動を見据えた若年層を含む新たな担い手の確保が必要である。

【福祉】

- 高齢者、障がい者などの各施策分野別で取組を進めているが、複合的な課題を抱えた要援護者など、これまでの仕組みだけでは解決できない問題も生じており、様々な関係機関が連携し、横断的かつ包括的な支援を行う仕組みが求められている。
- 若年の就労困難層に対して、多様な就労支援等を通じた自立支援を行うためには、古典的な日雇建設労働市場に代わる新たな手法を開拓し、連携していく必要がある。

【人権】

- 人権問題は一人ひとりに深くかわる身近な問題であることに気づき、人権にかかわる正しい理解と認識を深め、態度や行動へと結びつけられるような取組を一層進めていく必要がある。

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 2-1 【地域資源を活かした新たなにぎわいづくりと活性化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 多くの人が集い、まちににぎわいが生まれている状態		戦略（中期的な取組の方向性）	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 区民をはじめ、宿泊施設利用者や事業参加者等へのアンケートにより、西成区の地域資源を活かした取組みが、にぎわい創出やまちの活性化につながっていると感じると答えた割合が、令和3年度までに65%以上		・新今宮エリアに集積する廃業・休業した宿泊施設や商店街店舗を再生し、外国人旅行者等のインバウンド需要のエリア内に回遊性をもたせ、にぎわいを創出する。 ・地域資源や区内の歴史・文化を活かした取組を行い、地域住民・地域団体等が主体的に行う取組を支援するなど、まちの活性化につなげる。また、SNS等を活用した情報発信を強化するなど、西成区の魅力がより一層伝わるような取組みも進めていく。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		

具体的取組 2-1-1 【地域密着型エリアリノベーションビジネス促進事業】

		30決算額	- 円	元予算額	14,263千 円	2算定見込額	17,977千 円
計画	当年度の取組内容 新今宮駅前エリア内において、外国人観光客をはじめ多くの区民・市民が回遊し、にぎわいが創出できるよう、企業等と連携し、アンテナショップやまち歩きなどの手法を用いた仕掛けづくりを行うとともに、空き店舗等の改修費用についての一部補助制度を実施する。(補助件数2件)		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 本事業の参加者へのアンケートで、西成区に魅力を感じたと答えた割合70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%を下回る場合は、事業を再構築する。				
			前年度までの実績 (令和元年度) ・エリアリノベーションフォーラムの開催(8月・9月) ・地域密着型イベント新今宮フェスティバルの実施(10月)				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)				

具体的取組 2-1-2

【新今宮エリアブランド向上事業】

		30決算額	-円	元予算額	-円	2予算額	8,990千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	大阪ミナミの活性化をめざす鉄道事業者や宿泊事業者との連携のもと、大阪ミナミの新たな玄関口として「新今宮エリア」の歴史・文化・にぎわい等の魅力を発信し、「新今宮エリア」のブランディングを図る。	周辺駅乗降者数の増 及び 宿泊者、来街者へのアンケート、SNS上の口コミ分析により「新今宮エリアの良いイメージ」を回答・発信する割合の増加（前年度比較） 【撤退・再構築基準】 上記目標を達成できなかった場合には、事業の再構築を図る。					
	・鉄道・宿泊事業者及び本市（西成区・浪速区・経済戦略局）において実行委員会を設立 ・テストマーケティングを実施し、効果的な戦略の策定 ・発信ツールの準備	前年度までの実績					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)					

具体的取組 2-1-3

【西成区魅力発信事業】

		30決算額	1,202千円	元予算額	1,731千円	2算定見込額	2,669千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	近年、増加傾向にある外国人観光客に区内を周遊してもらえるよう、また、まちの魅力が十分に伝わっていない状況にあるため、区民に魅力を再認識してもらえるよう、マップやSNS等の様々な媒体を活用して、西成区の魅力を積極的に発信していく。	区のイベント等の参加者や区内の宿泊者等へのアンケートにより、区内の歴史的な名所などを知っていると答えた割合が50%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が20%を下回る場合は、事業を再構築する。					
	・観光マップの外国語版の作成 中国語（繁体字）: 1,500部 韓国・朝鮮語: 1,500部 ・SNS発信回数 12回以上 ・区内小中学校にて、大阪フィルハーモニー交響楽団出前授業の実施（中学校: 3校、小学校: 5校）	前年度までの実績 （平成29・30年度） ・ホームページのパナーや観光案内所等も活用しながら観光マップを配布。 ・観光案内人の養成講座の開催。 （令和元年度） ・外国語版西成観光マップ（英語・中国語（繁体字））を作成。					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)					

めざす成果及び戦略 2-2 【地域活動の支援強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	地域団体やNPO、企業等様々な活動主体が協働して地域活動が進んでいる状態		<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動協議会の自律的な運営 ・自律的な運営に向けた新たな担い手の確保、地域公共人材の活用を含めた人材の育成 ・CB/SBの活用を含め、自主財源の確保を図りつつ、地域資源を活用した地域活動の実施 ・企業やNPO等の、地域活動への参画の促進 ・多様な媒体を通じての広報活動の実施 	
計画	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)			
	区民モニターアンケートにおいて、「地域のまちづくりに関する活動が地域団体やNPO、企業などさまざまな活動主体の連携・協働により進められている」と感じる区民の割合が令和3年度までに平成30年度と比して20%の向上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		

具体的取組 2-2-1 【地域コミュニティ支援事業】

		30決算額	61,885千円	元予算額	64,515千円	2算定見込額	64,515千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	<p>地域一丸となって、様々な事業や行事等に取り組めるよう、地域活動協議会を支援し、新たな人材確保と地域力の維持・向上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動協議会補助事業 全16地域 ・区ホームページやFacebookなどによる地域活動協議会の取組に関する情報発信の実施 ・中間支援組織による支援 <ul style="list-style-type: none"> ①組織運営や、会計処理にかかる支援 ②新たな担い手の確保、他のさまざまな活動主体との連携・協働、及び地域公共人材の活用にかかる支援 ③地域課題やニーズの把握と解決に向けた支援(企業とのマッチング等、CB/SBを含めた支援)(研修会などの実施:年1回以上) ④市民活動にかかる支援ツール等の情報提供及びその活用にかかる支援(情報提供:年2回以上) 		<p>本市の実施するアンケートにより、まちづくりセンター等の支援を受けた団体が支援に満足している割合 88%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 上記アンケートの割合が50%以下の場合</p>				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>						
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>						
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	<p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった</p> <p>③:撤退・再構築基準未達成</p>						
	戦略に対する取組の有効性		<p>ア:有効であり、継続して推進</p> <p>イ:有効でないため、取組を見直す</p> <p>ー:プロセス指標未設定(未測定)</p>				

具体的取組 2-2-2

【緑化推進事業】

30決算額	1,322千円	元予算額	1,674千円	2算定見込額	1,674千円
-------	---------	------	---------	--------	---------

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>地域活動への動機付けや地域コミュニティの再生を目的に、高齢者の生きがいづくりやつながりづくりとしての地域拠点・活動場所の創出、また地域資源の一つであるボランティアの参画・協働による地域活動として、緑化推進事業を実施する。また、地域活動に関わってみたいといった層へのアピールも実施していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 種から育てる地域の花づくり事業の実施 年2~3回地域へ出荷(年間約50,000株) ボランティア意見交換会(年10回) ボランティア募集チラシの配布(イベント時及び花苗供給時等) 花と緑の講習会の実施 年5回 ボランティア養成講座の開催 年1回 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>区民モニター等のアンケートにおいて、「お住まいの地域での地域活動(地域で行われる催し物、事業等)に関心がある」と答えた区民の割合30%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】 上記の割合が20%以下になった場合は、事業手法について再構築を図る。</p> <p>前年度までの実績 種から育てる地域の花づくり事業の実施。 ボランティア相互の意見交換会を開催。 ボランティア主体による花と緑の講習会の開催。</p>
----	--	---

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

めざす成果及び戦略 2-3 【地域でのつながりづくり・福祉によるまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		子どもから高齢者、障がいのある方などすべての区民が、安心安全に暮らせる状態		戦略（中期的な取組の方向性） ・平成31年度から3ヶ年の計画となる西成区地域福祉計画に基づき、地域住民や関係機関との連携を図り、地域の多様な主体が参画し世代や分野を超えてつながる「地域共生社会」をめざし地域福祉力の向上に取り組み。 ・地域における見守り活動等がより効果的に実施されるよう支援していく。 ・あいりん地域を中心とした支援が困難な若年層に対して、就労、福祉など複数の分野にまたがって、あいりん地域特有の既存の資源を活用した支援を行い、自立につなげる。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		区民モニターアンケートにおいて、身近な地域で見守りや助け合いなどのつながりづくりが進んでいると思う区民の割合が令和3年度までに50%以上		
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	
	A: 順調 B: 順調でない				
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	

具体的取組 2-3-1 【西成版サービスハブ構築・運営事業】

		30決算額	円	元予算額	19,256千円	2算定見込額	24,296千円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者等が気軽に立ち寄ることができる場所を設置し、そこを居場所として提供(260日)するとともに、地域の福祉サービス提供者等と連携し、さらなる居場所を開拓していくことにより、支援へとつなげる。 また、就労、福祉などの分野を超えて、困難な事例の解決を図ることができる支援員を配置(260日)して、生活訓練から就労支援まで、個々人に応じたマッチングを図ることなどにより、抱える課題の解決を図り、各々に応じた自立をめざしていく。 さらに、日雇労働市場や地域の膨大な福祉需要等を地域の資源として活用して、(中間)就労やボランティア先等の開拓などを行い、支援の出口そのものを広げることにより、社会参加を促していく。 	課題解決に向けた具体的事例の検討件数:100件 【撤退・再構築基準】 上記目標が50件以下の場合、事業を再構築する。 前年度までの実績 令和元年8月より事業開始(8~9月支援開始実績:14件)					
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			

具体的取組 2-3-2

【西成区地域福祉計画推進事業】

		30決算額	— 円	元予算額	1,089千 円	2算定見込額	846千 円
計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）					
	令和元年度から令和3年度までの3年間で取り組む西成区地域福祉計画に基づき、地域住民・区役所・区社会福祉協議会・社会福祉施設などで構成された推進チームや推進会議、高齢者、障がい者、子育て等の分野別検討会議等の開催を行うとともに、地域ネットワーク委員など地域活動の担い手の発掘・育成のため、地域での成功事例の共有や新たなつながりづくり、区民フォーラム開催などを通じて地域福祉を推進する。	<p>推進チーム会議や各分野別検討会議等を定期開催し、3年間で取り組むべき地域福祉計画の4つの重点項目を中心に、計画に基づく具体的な取り組みを進める。</p> <p>【再構築基準】 上記が実施できなければ、事業を再構築する</p> <p>前年度までの実績</p> <p>—</p>					
中間振り返り		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	<p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない</p> <p>③: 撤退・再構築基準未達成</p>						
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア: 有効であり、継続して推進</p> <p>イ: 有効でないため、取組を見直す</p> <p>—: プロセス指標未設定(未測定)</p>					
自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	プロセス指標の達成状況						
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった						
	戦略に対する取組の有効性	<p>ア: 有効であり、継続して推進</p> <p>イ: 有効でないため、取組を見直す</p> <p>—: プロセス指標未設定(未測定)</p>					

具体的取組 2-3-3

【地域における要援護者の見守りネットワーク強化事業】

30決算額 28,689千円 元予算額 28,287千円 2算定見込額 28,391千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>区社会福祉協議会に「見守り相談室」を設置し、以下3つの機能を一体的に実施し、また、見守りフォーラムを開催(1回)するなど啓発活動を実施することにより、地域におけるきめ細やかな見守りネットワークの実現を図る(福祉局区CM予算)。</p> <p>①要援護者名簿(愛称「西成つながり名簿」)の地域への提供に係る同意確認・名簿整備 ②見守り支援ネットワークによる孤立世帯等への専門的対応 ③認知症高齢者見守りネットワークによる認知症高齢者の行方不明時の保護強化(事前登録及び発見協力者登録の推進) ※事前登録 認知症高齢者の行方不明時に協力者へのメールまたはファックス送信により早期発見につなげるため、写真や身体的特徴などを事前に登録する。</p>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>・見守りフォーラムなどの参加者に対するアンケートで地域における見守り活動に関わっていくことが必要だと感じている割合60%以上。</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>・上記アンケートの割合が50%以下の場合、事業手法の再構築を図る。</p>
	<p>前年度までの実績</p> <p>平成27年～30年度の実績</p> <p>①郵送及び訪問による同意8,371件(対象者15,533件)(累計) ②見守り相談室への相談件数5,116件(累計) ③認知症高齢者の事前登録者100名、行方不明時の発見協力者登録275件(平成31年3月末現在)(過去に協力者として登録されていたが、その後登録から外れた者を含めた総数は304件)</p>	

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

具体的取組 2-3-4

【単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業】

30決算額 12,822千円 元予算額 12,881千円 2算定見込額 10,402千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <p>・社会的つながりがない、又はほとんどない単身高齢生活保護受給者等に対して、社会参加に向けた支援や基礎的な生活の支援を行うとともに、日中の居場所を提供する。(260日以上)</p>	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <p>「社会的なつながりができた、かつ生活が改善した」と感じている利用者の割合 70%以上</p> <p>【撤退・再構築基準】</p> <p>上記目標が60%未満であれば、事業手法を見直す。</p>
	<p>前年度までの実績</p> <p>平成25年7月から開始し、登録者138名、総参加者数12,394名、総プログラム数2,193回実施。(平成30年度末時点)</p>	

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p>	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)</p>	

めざす成果及び戦略 2-4 【人権尊重のまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> すべての区民が人権意識が高まったと感じられる状態		戦略（中期的な取組の方向性） ・人権啓発推進の取組を通して、人権に関する情報を発信し、区民の「人権意識の醸成」につなげる。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 区民モニターアンケートなどにより、人権意識が高まったと答えた区民の割合が、令和2年度までに平成29年度と比して10%以上の向上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A: 順調 B: 順調でない			
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 2-4-1 【人権尊重のまちづくり】

		30決算額	2,000千円	元予算額	2,000千円	2算定見込額	2,000千円
計画	当年度取組内容 参加者が人権にかかわる正しい理解と認識を深め、態度や行動へと結びつけられるような事業を展開するとともに、多様な機会を通じて人権に関する情報を発信する。 ・人権を考える区民のつどい(2回) ・人権講座(3回) ・西成区広報紙への人権コラム掲載(年4回)		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 人権を考える区民のつどい、人権講座のアンケートで「事業の内容に満足した」と回答した参加者の割合70%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が30%未満であれば事業を再構築する。				
			前年度までの実績 (30年度) ・人権を考える区民のつどい 2回 ・人権講座 3回 ・西成区広報紙への人権コラム掲載 4回				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
	戦略に対する取組の有効性	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況						
			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	戦略に対する取組の有効性		①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)		

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【防災・防犯・安全対策】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

災害に強いまち、犯罪が起こりにくいまち、安心安全に暮らせるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【防災】

- ・西成区は、老朽木造住宅等が密集した地域が321ha(区面積の約44%)と広い範囲に及んでいる。
- ・南海トラフを震源とした地震や上町断層帯地震などの発生が懸念されており、最大クラス(M9.1)の南海トラフ巨大地震が発生すれば、建物の倒壊や火災による被害はもとより、最悪の場合、津波により499ha(区面積の約68%)が浸水すると想定されている。
- ・高齢者が多く、寝たきりの方や障がい者の方など災害時に支援を要する方も多い。
- ・地域防災活動の中核を担う地域防災リーダーの高齢化が進んでいる。(平成31年4月1日現在 平均年齢65.7歳)
- ・区民モニターにおいて「日頃から災害に対する備えが出来ている」と答えた区民の割合
平成26年度:24.4% 平成27年度:33.6% 平成28年度:34.2% 平成29年度:28.4%
- ・区民モニターにおいて「この1年間で備蓄や避難所の確認など災害に対する備えを行った」と答えた区民の割合(平成30年度より設問見直し)
平成30年度:47.0%

【防犯・安全対策】

区内の街頭犯罪発生件数

平成26年	1,506
平成27年	1,174
平成28年	955
平成29年	860
平成30年	950

区内の子どもに対する声かけ、つきまとい等発生件数

平成26年	28
平成27年	52
平成28年	27
平成29年	19
平成30年	20

区内の事故件数

	交通事故 件数	うち自転車 関連事故
平成26年	501	188
平成27年	422	152
平成28年	389	134
平成29年	398	138
平成30年	418	179

【空家等対策】

- ・空家件数及び空家率(平成30年住宅・土地統計調査)
西成区内 空家戸数20,090戸 空家率22.5% (24区中最多)
大阪市内 空家戸数286,100戸 空家率17.1%(全国平均13.6%)
- ・特定空家認知件数 ※特定空家:管理不全などにより安全、衛生、景観等の面で近隣住民の生活環境に支障をきたす空家
令和元年9月末時点 西成区内 103件
- ・周辺の特定空家等に不安を感じている市民の割合(平成30年大阪市調べ)
平成28年 西成区 11.6% 大阪市平均 9.4%
平成29年 西成区 8.8% 大阪市平均 10.6%
平成30年 西成区 22.1% 大阪市平均 13.3%
- ・今後5年程度の空家の活用意向がある所有者の割合(平成28、30年大阪市調べ※2年に1回)
平成28年 大阪市平均 84.5% 平成30年 大阪市平均 91.2%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【防災】

- ・西成区は災害に対して非常にぜい弱な地域であり、ひとりでも多くの区民の方に被害想定や正しい避難行動を知ってもらい、日頃から災害に対して備えておくことが重要であるが、区民モニターのアンケート結果では、「この1年間で備蓄や避難所の確認など災害に対する備えを行った」と答えた割合は5割程度にとどまっている。
- ・西成区は、災害時に支援を要する方が多い地域であるとともに、地域防災リーダーなど地域防災活動の中核を担う人材の高齢化も進んでいる。

【防犯・安全対策】

- ・街頭における犯罪の発生件数は平成29年までは順調に減少してきたが、平成30年においては自転車盗の発生件数が増えたため全体として増加している状況である。また子どもに対する事案は年により増減があるが29、30年と横ばいの状況である。
- ・交通事故に関しては、年により増減があり平成30年は自転車関連の事故が増加しており全体の約4割を占めている。

【空家等対策】

- ・西成区内には、保安上危険な特定空家が多数存在し、喫緊の課題となっている。また、空家の件数も他区に比べ多く、特定空家の発生を未然に防ぐ取り組みが必要である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【防災】

- ・地域におけるつながりの希薄化が進んでおり、災害時における要支援者対策の充実を図る必要がある。
- ・区民一人ひとりの防災意識の向上を図る必要がある。
- ・地域防災を担う新たな人材発掘・育成が求められている。

【防犯・安全対策】

- ・区民一人ひとりの防犯意識を高め、交通ルールの遵守とマナーアップが重要である。

【空家等対策】

- ・特定空家等の所有者調査を進め、判明した所有者等に対して、助言・指導を行い是正を図るとともに、特定空家等の発生を未然に防ぐため、空家等の適切な維持管理や権利関係の整理の重要性について広く周知、啓発を行っていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【コミュニティ防災力の強化】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）							
	日頃から地域住民がつながり、支えあうとともに、区民の防災意識が高く、災害に対する備えができています		<ul style="list-style-type: none"> ・平常時から、要支援者が孤立することなく、身近な地域の人々とつながる仕組みを充実させることにより、災害時における要支援者の避難支援につなげる。 ・区民一人ひとりの防災意識の高揚を図り、地域の特性や実情に応じた主体的な防災活動を活性化させることにより、地域防災力を強化する。 ・学校、地域と関係機関が連携して子どもへの防災教育に取り組む。 ・地域と防災協力事業所の交流を深め、事業所も地域の一員として防災活動に取り組む仕組みづくりを進める。 ・消防、警察をはじめとした関係機関との連携を密にし、防災力の強化を図る。 							
自己評価	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須							
	区民アンケート等で「この1年間で備蓄や避難所の確認など災害に対する備えを行った」と回答した人の割合を令和4年度までに50%以上		<table border="1"> <tr> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		前年度	個別	全体			
	前年度	個別	全体							
戦略のアウトカム指標に対する有効性		A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、戦略を見直す								
アウトカム指標の達成状況		A: 順調 B: 順調でない								
戦略の進捗状況		a: 順調 b: 順調でない								
		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須								

具体的取組 3-1-1 【地域防災活動事業－地区防災計画を活用した地域防災力の向上－】

30決算額 3,868千円 元予算額 5,617千円 2算定見込額 5,231千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	作成した地区防災計画に基づき地域ごとに防災訓練を実施する。災害時の避難行動、要支援者の支援、避難場所や避難所の運営ルールなどを確認・共有化することで、地域コミュニティにおける共助の意識の醸成を図り、地域防災力を高める。（令和2年度は8地域で実施）		事業実施した地域へのアンケートにおいて「住んでいる地域特性に応じた、災害時の対応」が理解できたと回答した割合90%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が70%未満であれば、事業を再構築する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)	
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性		A: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す 一: プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組3-1-2

【地域防災活動事業－地域防災の担い手の発掘・育成－】

30決算額	3,868千円	元予算額	5,617千円	2算定見込額	5,231千円
-------	---------	------	---------	--------	---------

計画	当年度の取組内容	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	地域防災リーダーに加え、防災協力事業所や学生などを対象とした講習会の実施など、地域防災の新たな担い手の発掘・育成及び連携強化に取り組む。 対象：地域防災リーダー16地域、防災協力事業所41事業所（令和元年10月1日現在）、区内中高生 ・防災アドバンス講習会を2回開催	受講者のうち、「地域の防災活動に積極的に関わってほしい」と答える割合が90%以上 【撤退・再構築基準】 上記目標が70%未満であれば、事業を再構築する。
		前年度までの実績 平成29年 防災アドバンス講習会を実施（全2回16地域20事業所計73名参加） 平成30年 防災アドバンス講習会を実施（全2回16地域21事業所計72名参加） 令和元年 防災アドバンス講習会を実施（全2回16地域18事業所計59名参加）

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）

めざす成果及び戦略 3-2 【防犯・安全対策の推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 犯罪被害や交通事故がなくなり、安心安全に暮らせる状態		戦略（中期的な取組の方向性） ・警察・行政・地域住民が協働して防犯対策を実施する。また、区民一人ひとりの防犯意識や交通ルール・マナー遵守の意識の向上を図るとともに、区民の主體的な防犯活動等を支援していく。	
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 区民アンケート等で、「安心安全なまちと感じる」「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合を令和4年度までに50%以上			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A: 順調 B: 順調でない	
戦略の進捗状況		a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 3-2-1 【防犯対策事業】

30決算額 2,307千円 元予算額 2,524千円 2算定見込額 2,545千円

計画	当年度の取組内容 警察とより連携した防犯対策を推進するために所轄警察と締結した「西成区安全・安心なまちづくりに関する協定」に基づき、警察、区役所が一体となって、地域の安全・安心の取組を進める体制を構築する。また、子ども達の安全を見守り、地域の防犯活動を支援し、区民一人一人の防犯意識を高めるための各種キャンペーン等を地域、警察と協働し取り組む。 ・防犯カメラ設置補助(8台)随時 ・自主防犯活動支援(随時) ・青色防犯パトロールカー及び自転車による巡回(随時) ・遠足等の随行警備(随時) ・防犯啓発キャンペーンの実施(ひたくり防止カバー取付) ・特殊詐欺防止啓発活動 ・小学校、幼稚園等での防犯教室の開催(随時)		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 令和元年の街頭における犯罪発生件数を前年より減少させる【撤退・再構築基準】 前年より街頭における犯罪発生件数が20%増加した場合には事業を再構築する。 前年度までの実績 H30 ・防犯カメラ設置補助 8台 ・防犯ボランティア活動団体への支援 17団体 ・防犯啓発キャンペーン実施(ひたくり防止カバー取付) ・特殊詐欺防止キャンペーン実施 ・小学校、幼稚園等での防犯教室開催	
	プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
中間振り返り	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)		
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組3-2-2

【自転車等安全利用啓発事業】

30決算額	3,738千円	元予算額	4,670千円	2算定見込額	4,561千円
-------	---------	------	---------	--------	---------

計画	当年度の取組内容 交通安全に関する意識を養うことにより、区民の交通ルールの遵守とマナーアップを図る。特に、自転車の安全利用の啓発及び区内主要駅における放置自転車問題に取組む。 ・交通安全区民大会実施(4・9月) ・交通安全運動等での啓発活動(随時) ・めいわく駐車・駐輪追放キャンペーン ・放置自転車啓発指導員の配置 ・自転車対策連絡協議会による放置自転車合同啓発 ・広報紙等への自転車特集	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) 区民へのアンケート等により、交通ルール・マナーに関する意識が高まっていると回答する区民の割合が70%以上 【撤退・再構築基準】 上記割合が50%未満の場合事業を再構築する。
		前年度までの実績 平成30年度 ・交通安全区民大会実施(5・9月) ・交通安全運動等での啓発活動(5・9月) ・めいわく駐車・駐輪追放キャンペーン(6・10・12・3月) ・放置自転車啓発指導員の配置 ・自転車対策連絡協議会開催 ・広報紙による自転車特集

中間振り返り	プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況 ①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性 ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

めざす成果及び戦略 3-3 【空家等対策の推進】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	空家の適正管理や利活用が行われ、周辺住民が特定空家等への不安を感じることなく暮らせる状態		・空家に関しては区役所が拠点となり、喫緊の課題である特定空家等のは正や空家の適正管理や利活用の促進等を総合的に行い、安心安全なまちづくり及び地域の活性化につなげる。	
計画	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標）			
	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺の特定空家等に不安などを感じている市民の割合を、令和2年度までに対平成28年度比50%減 ・今後5年程度の空家の活用意向がある所有者の割合を、令和2年度に9割とする。（大阪市平均） 			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体		
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A: 順調 B: 順調でない	
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 3-3-1 【空家等対策推進事業】

		30決算額	175千円	元予算額	414千円	2算定見込額	414千円
計画	当年度の取組内容			プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）			
	特定空家等の所有者調査を行う(新たに把握した物件全件) ・是正に向けた助言、指導の実施(所有者が判明した物件全件) ・広報紙、ホームページでの空家の適切な維持管理等に関する啓発の実施(広報紙:1回、ホームページ:通年) ・空家の管理、活用に関するセミナーの開催(1回)			・特定空家等の解体や補修等による是正件数10件以上【撤退・再構築基準】 ・是正件数が5件未満であれば、事業を再構築する			
計画				前年度までの実績			
				平成28年度 是正件数 11件 平成29年度 是正件数 6件 平成30年度 是正件数 16件			
中間振り返り	プロセス指標の達成状況			課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績			課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	プロセス指標の達成状況			改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須			
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)					

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【あいりん地域対策】

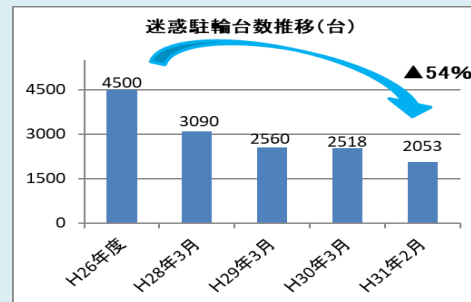
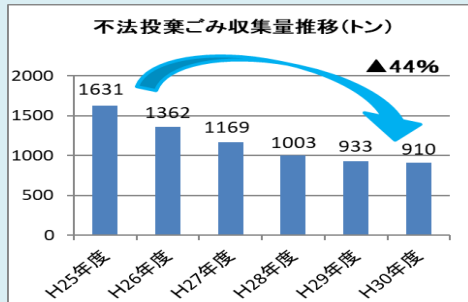
めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

官と民が協働して取り組み、あいりん地域が抱える様々な課題を解決し、誰もが安心して暮らすことができるまちをめざす。

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【あいりん地域環境対策】

- ・かつて、あいりん地域は、公園や道路などのごみの不法投棄や、テント・小屋掛けによる不法占拠、そして道路通行に支障をきたす膨大な数の駐輪、いたるところへの落書き等 様々な問題により、まちの環境が損なわれ、まちのイメージも著しく損なわれていた。
- ・現在は、環境整備事業により、道路や公園でのごみの散乱やまちの落書き等が無くなり「きれいになった」と言われている。



【結核対策】

- ・これまで重点的に取り組んできた成果が現れ、着実に患者数は減少しているが、依然として西成区は罹患率が高く、患者数は大阪市全体の約2割を占めており、罹患率は全国の10倍以上となっている。

＜新登録結核患者数および罹患率(H30)＞

全国: 15,590人 / 12.3
 大阪市: 798人 / 29.3
 西成区: 148人 / 134.8
 (うち、あいりん地域: 64人 / 297.7)



計画

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

【あいりん地域環境対策】

- ・地域住民の意識に潜在する「あいりんルール(ごみは誰かが片付ける、分別しなくていい、毎日回収する)」が原因で、ごみの排出ルールが守られていない。
- ・現在路上に駐輪されている自転車は、長期放置されたものではなく、大半は使用中の自転車である。
- ・地域内の簡易宿泊所やアパートには、入居数に見合う自転車置場を設置していない物件が多く、建物前の路上には多数の駐輪が見受けられる。

【結核対策】

- ・罹患率を減少させるには、区内で実施している結核健診等において、一人でも多くの方に受診していただくことが患者の早期発見につながる。また、発見した全ての結核患者に対して最低でも6カ月かかる治療を確実に終了させることが重要である。と考える。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

【あいりん地域環境対策】

- ・不法投棄の抑止のための巡回啓発や公園での拠点啓発などにより、不法投棄収集量が大幅に減少するなど環境は大幅に改善しているが、後戻りすることのないよう改善した状態を維持し、定着させていく必要がある。
- ・迷惑駐輪は、大幅に減少したものの、依然として約2,000台が地域内の路上に放置されており、引き続き自転車置場の利用促進などの対策を行うとともに、新たな対策の検討を進める必要がある。
- ・花園公園のテント・小屋掛けは解消したが、萩之茶屋中公園・萩之茶屋南公園は今なお不法占拠が続いており、その平和的な解決が望まれている。

【結核対策】

- ・結核健診の受診者数が減少傾向にある中で、特に罹患率の高いあいりん地域において、関係機関と連携した結核健診を実施し、早期に患者を発見する必要がある。
- ・発見した結核患者を確実に治療につなげ、患者の状況に応じたDOTS(服薬支援)により確実に治療を完遂させる必要がある。

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 4-1 【あいりん地域環境対策】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	あいりん地域の様々な課題を概ね解決し、既存の資源を活用することで、多くの区民が地域の環境が良くなったと感じることができる状態		・まずは、官と民の協働により、あいりん地域の環境を改善する。その後は、地域住民の自律的・主体的な取組により、環境が維持・改善されていくような仕組みづくりをめざす。 ・地域についての正しい情報の発信に努める。	
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) あいりん地域の住民や関係者へのアンケートにおいて「あいりん地域の環境が良くなったと感じる」と回答する割合 令和4年度までに80%以上			

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須			
	A: 順調 B: 順調でない			
戦略の進捗状況		a: 順調 b: 順調でない		

具体的取組 4-1-1 【不法投棄対策】

30決算額 141,617千円 元予算額 147,066千円 2算定見込額 112,730千円

計画	当年度取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	・地域内における不法投棄を防止するための巡回活動を実施する。(年間364日) ・公園に設置した美化啓発拠点に持ち込まれる、家庭ごみを適正に処理するとともに、地域住民に対し家庭ごみの排出ルールを啓発を行う。(年間364日)	・令和2年度の不法投棄ごみ量(収集量)を前年度より減少させる 【撤退・再構築基準】 ・不法投棄ごみ収集量が10%以上増加した場合は事業の再構築を行う	
		前年度までの実績 平成25年度(取組前) 不法投棄ごみ収集量 1,631t 平成30年度 不法投棄ごみ収集量 910t	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組4-1-2

【迷惑駐輪対策】

		30決算額	4-1-1に含む	元予算額	4-1-1に含む	2算定見込額	4-1-1に含む
計画	当年度の取組内容 ・地域内に設置した、自転車置場の適切な管理、利用促進を図る。 ・建設局と連携した対策を実施し、迷惑駐輪による交通障害の解消を図る。 ・新たな対策の検討に向けた、実態調査を実施する。		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） 地域内の路上駐輪台を約2,000台以下とする 【撤退・再構築基準】 路上駐輪台数が2,500台を上回った場合は事業の再構築を行う				
			前年度までの実績 路上の迷惑駐輪台数 平成26年度（取組前） 約4,500台 平成31年2月調査 約2,000台				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性		ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)				

めざす成果及び戦略 4-2 【あいりん地域を中心とした結核対策】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 西成区内の結核事情を改善させることにより、区民が安心して暮らせる状態	戦略（中期的な取組の方向性） 区民への正しい結核の知識の普及啓発に努めると同時に、結核健診の効果的な実施により患者の早期発見・早期治療をめざす。また、患者を治療完遂へ導くため、患者一人ひとりの状況に応じた服薬支援を行う。
	アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） 西成区の結核罹患率を令和4年までに100未満	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A: 順調 B: 順調でない	
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない	

具体的取組 4-2-1 【結核患者の早期発見・早期治療】

30決算額 17,750千円 元予算額 20,900千円 2算定見込額 20,457千円

計画	当年度の取組内容 ・あいりん地域内の患者発生アパートにおいて個別受診勧奨を実施することによりハイリスク健診を強化する。 ・あいりん地域内健診を月3回以上実施し、関係機関と連携して受診の徹底をはかる。 ・あいりん地域住民に対して、生保担当者や介護支援者等と連携して定期受診を勧奨する。	プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標） あいりん地域の結核患者のうち、西成区実施の健診によって発見された方の割合を25%以上 （※西成区実施の健診：区役所、分館、検診車、委託医療機関での健診） 【撤退・再構築基準】 上記目標が15%以下となる場合は、事業を再構築する
		前年度までの実績 平成26年:29.2% 平成27年:20.4% 平成28年:24.7% 平成29年:30.4% 平成30年:21.8%(概数値)

中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

具体的取組4-2-2

【結核患者の支援の充実】

30決算額 29,755千円 元予算額 34,168千円 2算定見込額 34,491千円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）
	<ul style="list-style-type: none"> ・あいりんDOTS（肺結核患者に対する服薬支援）を、患者の状況に応じて選択できるよう拠点型・訪問型を一体的に実施し、より確実な服薬支援を実施する。 ・居所がない患者に対して、治療期間に限りあいりん地域内で居所を提供し、あいりんDOTSの実施により治療中断を防ぐ。 ・あいりんDOTS実施者を対象とした「DOTS実施者のつどい」を月1回開催する。 ・あいりん地域以外の患者に対して、リスクアセスメントを実施したうえで適切な服薬支援を選択して治療完了へ導く。 		新登録肺結核患者の治療失敗・脱落中断割合を3%以下（※新登録翌年の12月末時点の集計結果） 【撤退・再構築基準】 上記目標が5%を超える場合は、事業を再構築する 前年度までの実績 平成27年：1.7% 平成28年：2.2% 平成29年：2.9%
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す ー：プロセス指標未設定（未測定）	